

平成 22 年度漁業懇話会奨励賞について

漁業懇話会では、若手研究者の育成と漁業研究の活性化のため、優れた若手研究者を褒賞する漁業懇話会奨励賞を設立いたしました。対象は、前年度の春季および秋季大会において口頭発表またはポスター発表を行った学生等（おおむね 30 歳以下）とし、発表内容は研究発表部門「1. 漁業」の細目に該当する研究内容といたしました。今年度は、本会委員会の委員から推薦された 6 名の候補者の中から、選挙により 3 名の受賞者を決定し、3 月 26 日の第 56 回漁業懇話会講演会の後、小島委員長より表彰状と記念品が贈呈されました。今後も漁業の発展に益々貢献されることを期待します。

平成 22 年度漁業懇話会奨励賞受賞者（左より吉川 彰，佐藤克哉，東野 透の各氏）



吉川 彰 氏（近畿大学，現 株式会社シャトー海洋調査）

平成 21 年度春季大会

講演番号：141

講演題目：魚類の入出からみた小型定置網の漁獲効率について

受賞理由

定置網における魚類の入出を、標識放流と、一日に複数回の揚網という、古典的かつ労力を要する調査によって明らかにしている。いざ実行しようと思ってもなかなか容易ではない、実験デザインの大胆さが評価できる。定置網内の魚類の自由度の高さ、実際に一度入網した魚類の出網、出網した魚類の再入網を捉えている。加えて漁獲効率を算出し、自由度の高さを定量的に評価している点も受賞に値する。定置網内における魚群の滞留特性が魚種によって異なることを、現場における実験で明ら

かにした興味ある内容である。

佐藤克哉 氏（東京海洋大学）

平成 21 年度秋季大会

講演番号：119

講演題目：イカ釣り漁業における灯光利用技術に関する研究 XII
LED およびメタルハライド漁灯下の光環境測定

受賞理由

今後発展と普及が期待される LED 利用について、現場漁業者および器具メーカーと共同しながらの実証研究は、極めて重要な課題であるとともに、今後の水産技術研究のモデルとなるものと判断し、ここに受賞者とする次第である。

東野 透 氏（長崎大学）

平成 21 年度秋季大会

講演番号：120

講演題目：夜間一本釣り漁業における LED 水中灯の導入試験

受賞理由

近年の漁船漁業における燃油高騰に対応して、サンマ棒受け網、イカ釣り、まき網漁業など集魚灯を用いる漁業を対象として発光ダイオードを用いた省エネ対策が精力的に実施されている。しかし、その他の集魚灯漁業における取り組みは数少ない。本研究では、従来の集魚灯（3kW×2 灯）を小電力の LED 光源（70W×2 灯）にすることにより、漁場への航海中にバッテリーを充電し、漁場では主機関を停止させバッテリーだけで集魚灯を点灯させる一本釣り漁業における省エネ操業システムの実用性を検討した。小規模・零細な一本釣り漁業において実用可能な LED 集魚灯の導入法を検証したものであり、沿岸漁業のニーズに応じている。